

2024年11月1日開催
2025年3月期上期決算説明会での主な質疑応答

Q1 修正後の業績予想では国内事業減益、海外事業増益となるがその要因は？

国内は、上期から続いている良いモメンタムがあり、これまでと同様に業績予想以上の水準を目指していく。海外は、ポートフォリオ全体での達成に取り組んでいく。

Q2 下期のマーケティング投資の考え方は？

第4四半期にせとうち広島工場の稼働を開始する。拡大する製品供給能力を最大限に活かすため、マーケティング投資を行い、ブランド強化と販売モメンタムの更なる向上を目指す。

Q3 北米の状況を教えてほしい。第2四半期が減益となった要因は？

減益は一過性のコストによるもの。売上高は前年同期比で二桁成長と、堅調に推移している。要因は、「Harvest Snaps」と日本発ブランドの、配荷の拡大が進み、回転率も向上したことによる。

Q4 来期の収益成長の見通しは？

せとうち広島工場の償却負担もあるが、投資の成果はEBITDAで示していきたい。営業利益の伸びの鈍化は、S&OPなど様々な効率化により押し上げていきたい。成長戦略のガイダンスは、3カ年のコミットメントとして達成していく。

Q5 来期以降のコストの見通しと人件費を含めたコスト高騰に対する価格戦略は？

為替動向等でコストが高騰すれば、価格改定も含めて、様々なオプションを検討する。肥料等のばれいしょ栽培費用は継続的に上昇しており、これを考慮する必要もある。一方、消費者の節約志向も強まっており、これまで通り製品毎に選択的な対応も重要と考えている。

Q6 S&OPの取組による効果は？

当期・来期ではSKU別損益を活用した収益改善の効果が実現。また、サプライチェーンの効率化を、DXを併せて取り組んでいる。現在開発を進めているサプライチェーン効率化システムのC-BOSSは、来期の運用開始を目指しており、2026年度以降にこの効果が実現する見通し。次の取組みとして、2026年度以降に向けてDXを活用したマーケティングと営業の変革も検討している。

Q7 財務戦略方針の見直しについて、アップデートは？

収益の質的改善、財務体質の健全性確保、株主還元の適切な実施の三本柱で進めていきたい。事業ポートフォリオにより成長に向けた投資は、資本コストを意識した投資判断とリターンを追求する。資本収益性改善のためのKPIを、次年度の計画に織り込む予定。また、安全性を勘案しつつ、最適資本構成によりレバレッジをきかせて資本コストは6%程度まで低減を目指す。株主還元については重要な経営課題であり、安定的な増配を目指すとともに、自社株買いは総合的に判断する。

以上